

第5章 課題の整理

ここでは、第1章から第4章までの作業を行った際に残された課題等の整理を行った。なお、課題の整理の前にこれまでの検討作業のまとめを行い、最後に、今後の方向性についても検討した。

5. 1 これまでの検討作業のまとめ

(1) 平成21年度、23年度、24年度のJSEEA-Water

①平成21年度

平成21年度のJSEEA-Waterの検討作業では、国連SEEA-Waterハンドブックを受けて、我が国でも早期に水及び経済情報を明確で標準化された方法で編集するための概念的枠組みを提供するためSEEA-Waterの推計作業を行うこととしたが、この時点では、我が国を対象とした先駆的研究がないため、先行研究である国連SEEA-Waterハンドブックのレビュー、JSEEA-Waterを作成するための基礎データの洗い出しと評価、JSEEA-Waterのフレームワークの検討、JSEEA-Waterの作表、課題と今後の展開について検討した。

②平成23年度

平成21年度の作業過程で、データの制約から全国値や項目の推計ができないといった課題が明らかとなったため、平成23年度は、さらに基礎データの洗い出し、JSEEA-Waterの作表上の課題への対応、「経済循環と水の循環」表のフレームワークの検討、水の価値の国際比較の検討、JSEEA-Waterの作表、課題の整理を行った。

③平成24年度

平成24年度は、さらに、基礎データの課題への対応、作表上の課題への対応、国連SEEA-Waterハンドブックの表への対応について検討した。これらの検討結果を踏まえて、新たにJSEEA-Waterの作表、「経済循環と水の循環」表の作表を行い、課題の整理を行った。

表 5.1-1 平成21年度、23年度、24年度のJSEEA-Waterの作業内容

作業年度	主な作業内容
平成21年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先行研究である国連SEEA-Waterハンドブックのレビュー ・ JSEEA-Waterを作成するための基礎データの洗い出しと評価 ・ JSEEA-Waterのフレームワークの検討 ・ JSEEA-Waterの作表 ・ 課題と今後の展開
平成23年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ さらなる基礎データの洗い出し ・ JSEEA-Waterの作表上の課題への対応 ・ 「経済循環と水の循環」表のフレームワークの検討 ・ 水の価値の国際比較の検討 ・ JSEEA-Waterの作表 ・ 課題の整理
平成24年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎データの課題への対応 ・ 作表上の課題への対応 ・ 国連SEEA-Waterハンドブックの表への対応 ・ JSEEA-Waterの作表 ・ 「経済循環と水の循環」表の作表 ・ 課題の整理

(2) 平成 25 年度と平成 26 年度の SEEA-CF

平成 25 年度と平成 26 年度は、SEEA-CF が国連統計委員会において条件付きながら国際基準として採択され SEEA2012 が公表されたことを受けて、SEEA-CF の勘定体系の検討を行った。

①平成 25 年度

平成 25 年度は、まず、SEEA-CF の策定に至る歴史的背景と環境指標開発における位置や我が国における SEEA への取り組みの概説し、SEEA-CF の概要を説明した。次に、SEEA-CF の勘定表について、勘定と表の種類、フローとストックの記録に関する枠組み、勘定表等の様式、勘定の単位及び規則原則を概説した。さらに、物的フロー勘定、環境活動勘定と関連勘定、資産勘定、勘定の結合と提示についてまとめ、最後に、今後の課題と方向性について整理を行った。

②平成 26 年度

平成 26 年度は、国連 SEEA-CF 報告書の個別勘定及びサブ勘定の概説を行うとともに、JSEEA-CF の水勘定表導入可能性について検討した。国連 SEEA-CF 報告書の個別勘定とサブ勘定は、平成 25 年度の概説書に盛り込めなかった物的フロー勘定（エネルギー、水、生産物、大気、水中、固形廃棄物、物質フロー）、資産勘定（鉱物・エネルギー資源、土地、土壌、木材資源、水産資源、その他の生物、水）、勘定の連結と提示（エネルギー、水、森林生産物、大気）について整理した。JSEEA-CF の水勘定表導入可能性は、我が国基礎統計と JSEEA-CF の水勘定表との対応の把握、JSEEA-CF の水勘定表の仮設値の試作、JSEEA-CF における水勘定の構造や推計上の課題を検討した。

表 5.1-2 平成 25 年度と平成 26 年度の SEEA-CF の作業内容

作業年度	主な作業内容
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ SEEA-CF の策定に至る歴史的背景と環境指標開発における位置や我が国における SEEA への取り組みの概説 ・ SEEA-CF の勘定表の種類、フローとストックの記録に関する枠組み、勘定表等の様式、勘定の単位及び規則原則を概説 ・ 物的フロー勘定、環境活動勘定と関連勘定、資産勘定、勘定の結合と提示 ・ 今後の課題と方向性
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国連 SEEA-CF 報告書の個別勘定及び物的フロー勘定、資産勘定、勘定の連結と提示の概説を作成 ・ JSEEA-CF の水勘定表導入可能性について検討

(3) 平成 27 年度 JSEEA-CF の水勘定（平成 11 年、16 年、21 年、24 年）

今年度（平成 27 年度）は、これまでの検討結果を踏まえ、最新のデータとなる平成 24 年の JSEEA-CF の水勘定表の試算値を作成するとともに、平成 11 年、平成 16 年の JSEEA-Water を JSEEA-CF の水勘定表へ組み替えた。なお、平成 26 年度に作成した平成 21 年の JSEEA-CF の水勘定表も見直し、課題の整理を行った。

表 5.1-3 平成 27 年度 JSEEA-CF の水勘定の作業内容

作業年度	主な作業内容
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 24 年の JSEEA-CF の水勘定表の試算値表の作成 ・ JSEEA-Water の JSEEA-CF 水勘定表への組み替（平成 11 年、16 年、21 年）

5. 2 残された課題

残された課題としては、生産物に組み込まれた水のうち米以外の農林産物、建設業と鉱業の水使用量及び2008SNAとのリンクがある。

(1) 生産物に組み込まれた水

第2章ではJSEEА-CFの「水の物的供給表」の「(V)取水の蒸発、蒸散、及び生産物に組み込まれた水」のうち生産物に組み込まれた水については、製造業の原料用水と農産物のうち米の水分量を推計し、新たに計上した。しかしながら、他の産物、例えば、農業では米以外の農産物の水分量、林業では樹木に含まれる水分量などは推計できていないため、これらの推計が今後の課題である。

(2) 建設業と鉱業の水使用量

第2章では建設業と鉱業の水使用量について検討したが、データの制約から推計するに至らなかったため、今後のデータ収集等が課題である。

(3) 2008SNAとのリンク

SEEА-CFは、2009年2月に国連より2008SNAが新たに勧告された折、2008SNAに合わせて、環境経済勘定に関する専門家委員会において検討されたものであるため、今後は、我が国の2008SNAの改訂に合わせて貨幣データを再作成する必要がある。

(4) 産業部門の取扱いに関する留意点

基礎統計の産業部門の扱いが年により異なっているため、集約表を作成する際には留意する必要がある。

5. 3 今後の方向性

(1) JSEEА-CFの水勘定の更新について

JSEEА-CFの水勘定についての課題点は、ほぼクリアできたため、今後は最新年のデータでJSEEА-CFの水勘定表を更新していくことが必要である。

(2) SEEА-AE(拡張と応用)とのリンクについて

SEEА-AE(拡張と応用)は、SEEА-CFから得られる指標・数値からの分析目的に相応しい指標の選択・作成を行う上でのガイドラインを提供するものであり、各指標は基礎統計から成る各指標と整合性を有する勘定体系を介して作成される。今後は、SEEА-CFの水勘定とSEEА-CFの指標とのリンクについて検討する必要がある。

